

令和8年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第8号（水稻）

令和8年8月7日発表（対象期間：令和8年8月上旬～8月下旬）



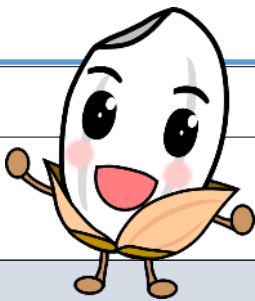
1-（1）

水稻病害虫の現況と予報（概要）

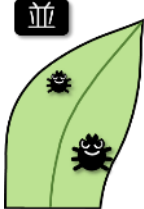
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち （中生）	並 （葉いもち）	並 （葉いもち）	・ 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の穂いもちの基幹防除を徹底しましょう。 ・ にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちが見られたほ場では直ちに防除しましょう。
紋枯病	やや少 	並 （葉いもち）	・ 高温、多湿状態で感染が進み、発病が増加するので注意が必要です。 ・ 昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・ 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。
セジロウンカ	並 （葉いもち）	並 （葉いもち）	・ 通常、出穂後の防除は必要ありません。 ・ 要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に10頭/株以上
トビイロウンカ	並 （葉いもち）	並 （葉いもち）	・ 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 ・ トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。 ・ 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
コブノメイガ （中生）	やや多 （葉いもち）	やや多 （葉いもち）	・ 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後、粒剤は発蛾最盛期に防除を行います。

令和 8 年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第 8 号（水稻）

令和 8 年 8 月 7 日発表（対象期間：令和 8 年 8 月上旬～ 8 月下旬）



1-（1） 水稻病害虫の現況と予報（概要）

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
斑点米カメムシ類			・ 早生品種では、被害が集中するため基幹防除を徹底しましょう。 ・ 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂 2 週間前までに除草を終えましょう。 （要防除水準） カスミカメ類：4 頭以上／2 0 回振り、 その他加害種：2 頭以上／2 0 回振り （防除時期） カスミカメ類 出穂期～その 1 0 日後に 1 ～ 2 回 その他加害種 出穂 7 日後～ 1 4 日後に 1 ～ 2 回
イネカメムシ			・ 出穂前の水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。 ・ 斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の 2 回目防除も検討しましょう。 （防除時期） 出穂期～その 10 日後に 1 ～ 2 回

① 穂いもち 中生		現況	予報
予報の根拠		並	並
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	● 8月上旬巡回調査では、中生品種の葉いもち発生地点率が44.4% (平年42.8%) で、平年並みになっています (±)。 ● 中国地方 1 か月予報では、降雨は平年並みとなっています (±)。		

【防除上の注意事項】

- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。
穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- にわか雨が多い場合は病勢が急激に進展するため、ほ場を見回り、葉いもちが見られたほ場では早めの葉いもち防除を行いましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑 (普通作物)」

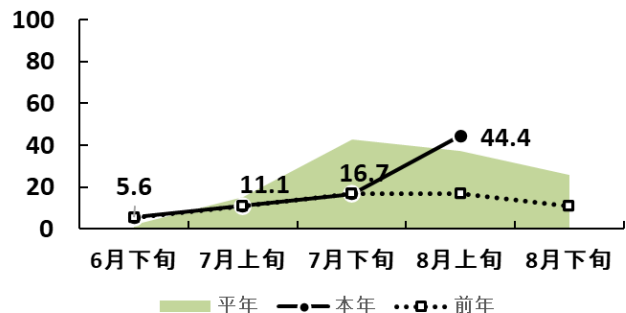
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

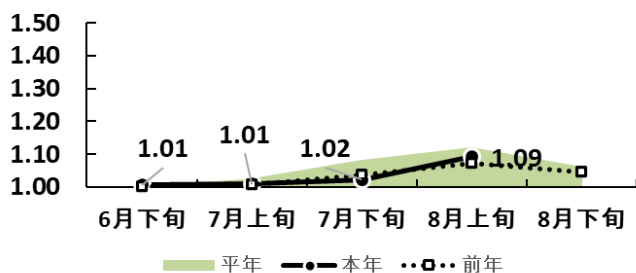
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ (葉いもち)】

葉いもち 発生地点率 (中生18地点)



葉いもち 発生程度 (中生18地点)



穂いもち



穂首部分 (拡大)

② 紋枯病

現況 → 予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、発生地点率は22.9%（平成33.3%）で平成よりやや少ない発生となっています（－）。
- 中国地方1か月予報では気温が高く、降雨は平成並みです。紋枯病の発生に好適です（＋）。

やや少



並

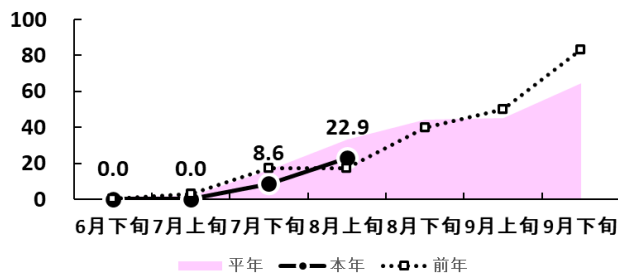


【防除上の注意事項】

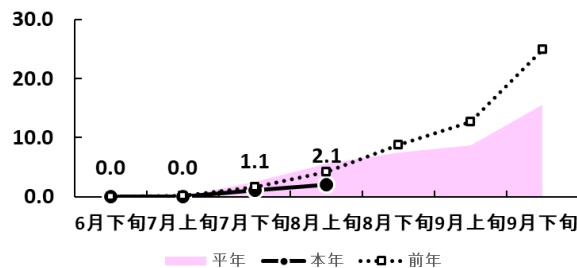
- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。夏期高温や降雨や曇天が続くことが予想されるときは発生に注意しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は、病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期から出穂期が適期です。薬剤は、病患部の葉鞘によく付着するように株元をねらって散布しましょう。
- 要防除水準：穂ばらみ期の発病株率が、中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率(全域 35地点)



紋枯病 発生株率(全域 35地点)

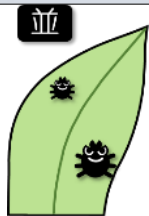
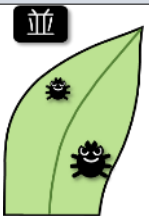


③ セジロウンカ

現況 → 予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、発生地点率は平成並み、発生程度はやや少ない発生でした（±）。
- 予察田では、8月第1半旬に100株当たり430頭（平成295頭）となっており、平成より多い発生となっています（＋）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（－）。

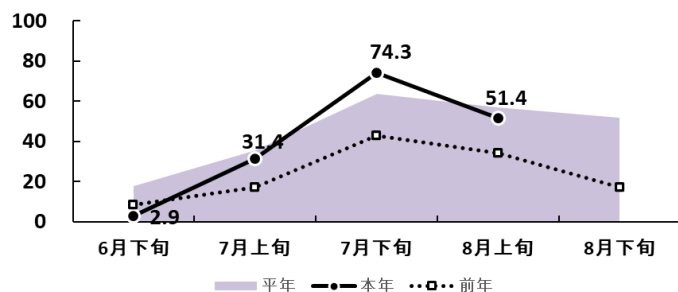


【防除上の注意事項】

- イネをよく観察して、飛来した成虫の早期発見に努めましょう。ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。
- 通常、出穂後は水田から移動するため防除は必要ありません。
- 要防除水準：幼穂形成期から穂ばらみ期に中老齢幼虫・成虫10頭/株以上

【巡回調査データ】

セジロウンカ 発生地点率(全域 35地点)



長翅型成虫



中老齢幼虫

④ トビイロウンカ

現況 → 予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、発生が確認されませんでした（－）。
- 予察灯（東広島市）で、7/6に雌成虫が1頭、7/7に雄成虫が1頭確認されました（＋）。
- 予察灯（尾道市）では、7/30に1頭確認されました（＋）。
- 予察灯（呉市）では確認されていません（－）。
- 一部ほ場で発生が確認されています（＋）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に不適です（－）。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因



【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- トビイロウンカは、卵や成虫に対する薬剤効果が低いため幼虫発生盛期が防除適期となります。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。
- 有効積算シミュレーションによる防除適期は8月第6半旬となっています。
- 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。



長翅型成虫



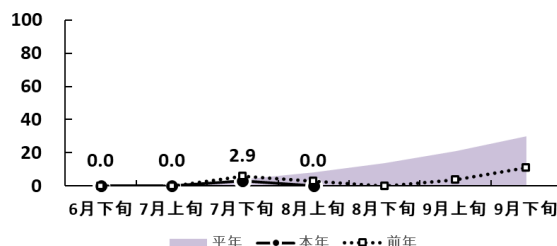
短翅型成虫



中老齢幼虫

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(全域 35地点)



⑤ コブノメイガ（中生）

現況 → 予報

予報の根拠

- 8月上旬巡回調査では、中生品種で平均地点率が64.7%（平年29.7%）で過去10年で2番目に高くなっています（＋）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（＋）。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

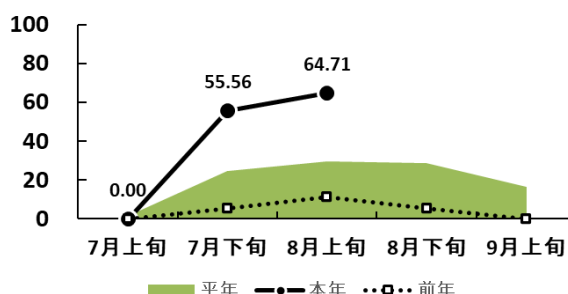


【防除上の注意事項】

- 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、粒剤は発蛾最盛期、粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後に防除を行います。
- 有効積算温度シミュレーションによる第2世代の発蛾最盛期は、8月第3半旬です。

【巡回調査データ】

コブノメイガ 発生地点率(中生 18地点)



成虫



被害葉

⑥- 1 斑点米カメムシ類

現況 予報

現況

- 8月上旬の早生品種本田すくい取り調査における要防除水準を超えるほ場の割合は41.58%（101地点中42地点）でした。
- カスミカメ類の平均すくい取り虫数は1.1頭（平均3.7頭）でした（表）。
- その他加害種の平均すくい取り虫数は1.7頭（平年1.8頭）でした（表）。
- その他加害種の中では、加害力の高いクモヘリカメムシの割合が高くなっています。
- 中国地方 1 か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。

やや多



やや多



【防除上の注意事項】

- 斑点米被害は、カメムシ類の成虫または幼虫がイネの出穂期以降に穂を吸汁し、吸汁痕が褐変して玄米表面に斑紋をつくることで起きます。したがって、防除の目的は出穂期以降のカメムシ類の密度低下にあります。
- 早生品種では、被害が集中するため基幹防除を徹底しましょう。
- 出穂期近くになっての畦畔などの除草は、カメムシ類を水田内に追い込むことになります。早生では除草を控えるようにしましょう。中生では出穂 2 週間前までに除草を終えましょう。
- 本田掬い取り調査では出穂期からほ場への侵入がみられており、防除を行っていないほ場では被害が集中する恐れがあります。期間防除を徹底しましょう。

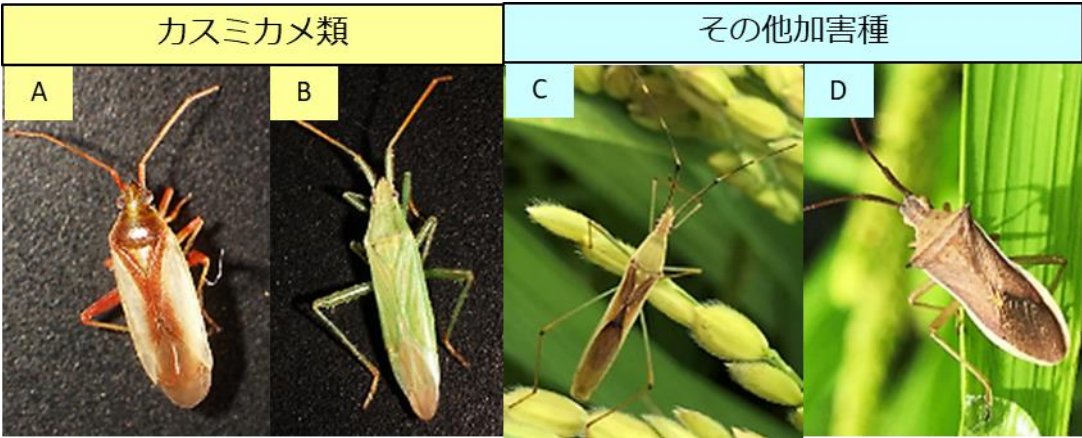
（要防除水準）

- カスミカメ類：4 頭以上／2 0 回振り、
- その他加害種：2 頭以上／2 0 回振り

（防除時期）

- カスミカメ類 出穂期～その 1 0 日後に 1 ～ 2 回
- その他加害種 出穂 7 日後～ 1 4 日後に 1 ～ 2 回

- 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。



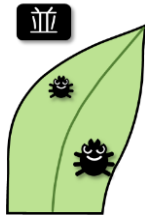
A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、C：クモヘリカメムシ、Dホソハリカメムシ

表 本田すくい取り虫数（頭）

地帯	区分	令和8年	令和7年	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	平均
南部平均値	カスミカメ類	0.8	2.1	3.3	－	1.8	0.0	1.8
	その他加害種	4.7	5.3	8.6	－	0.9	4.5	4.8
中東部平均値	カスミカメ類	1.2	3.7	5.9	4.0	5.0	0.8	3.9
	その他加害種	2.6	0.8	4.8	0.2	0.3	0.5	1.3
中西部平均値	カスミカメ類	0.7	1.0	6.5	6.7	1.8	0.7	3.4
	その他加害種	0.6	0.9	6.9	0.5	0.9	0.5	1.9
北部平均値	カスミカメ類	1.3	4.4	3.5	8.6	4.1	3.5	4.8
	その他加害種	1.5	0.1	0.2	0.5	0.7	0.1	0.3
県全域平均値	カスミカメ類	1.1	3.0	5.0	6.5	2.6	1.4	3.7
	その他加害種	1.7	1.3	5.4	0.4	0.8	1.0	1.8

⑥-2 イネカメムシ

現況 → 予報

予報の根拠		現況	予報
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因	● 8月上旬の本田すくい取り調査における要防除ほ場率は4.9%です。 ● 南部地域での発生ほ場率は44%でした（9地点中4地点）。 ● 8月第1半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は11頭（平年19.4頭）となっており、平年よりも少なくなっています（-）。 ● 予察灯（尾道市）で、7月5半旬までに50頭誘殺されています。 ● これまで発生がみられなかった北部地域でも発生が確認されています（+）。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。		

【防除上の注意事項】

- イネカメムシは、斑点米被害だけではなく不稔による大幅な減収を発生させる恐れがあります。出穂前から水田に侵入し、不稔を発生させることが確認されているため、多発地域では出穂はじめに防除しましょう。
- 斑点米被害防止のため、発生が多い場合は出穂期以降の2回目防除も検討しましょう。
- 極早生品種などの周囲と比べて出穂が早いほ場は、集中加害を受けるため、特に注意しましょう。

（防除時期）

出穂期～その10日後に1～2回

- 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。



1 齢幼虫



中齢幼虫



成虫

【イネカメムシについて】

● 形態

体長12-13mmの大型のカメムシ。体色は黄褐色で背部両面に白色帯を持ちます。体形はやや細長いです。幼虫はそれより小さく、白っぽい灰色をしています。

● 生態

成虫はススキや樹木などの根元や枯葉の下などで越冬し、6月下旬～7月上旬頃に水田への飛来が見られます。出穂していない水田にも集中飛来して集団化することもあります。その後、早生品種から中生品種へ出穂した水稻へ移動しながら増殖し、年1～2世代を繰り返します。その後は越冬地へ移動します。夜行性のため、早朝などはその姿を確認しやすいですが、日中はイネの株もとに潜むため発生に気が付かず、大きな被害が発生することが多いです。

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	並 	出穂前後の防除を徹底して下さい。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
フタオビコヤガ	少 	南部での発生がやや多いです。 穂ばらみ期防除を実施しましょう。

(広島地方気象台 8 月 6 日発表、8 月 8 日から 9 月 7 日までの天候の見通し)

- 今後 1 か月程度は気温の高い状態が続き、期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。
また、今後 2 週間程度は少雨の状態が続く見込みです。
- 向こう 1 か月の平均気温は高い確率が 60%、降水量は平年並又は少ない確率共に 40% です (図 1)。
- 週別の気温は、1 週目は高い確率 50%、2 週目、3～4 週目は高い確率 60% です (図 2)。

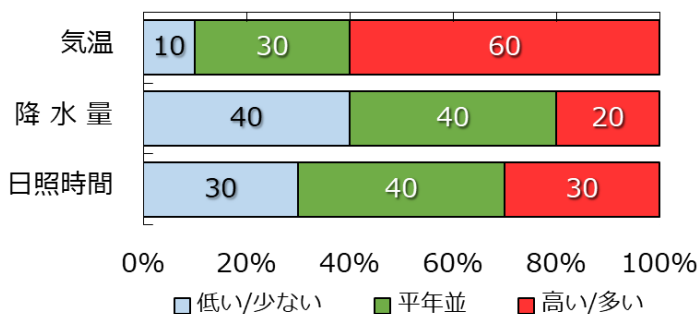


図1. 向こう 1 か月の平均気温・降水量
・日照時間の各階級の確率 (%)

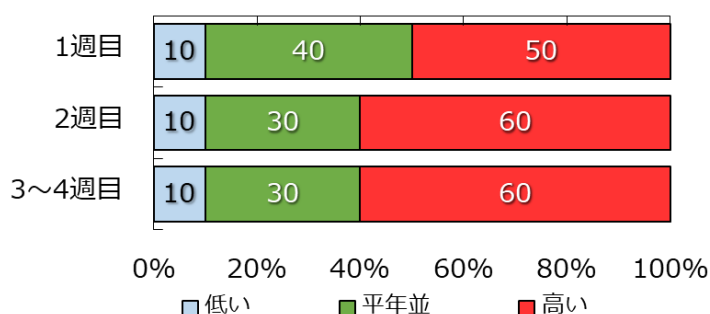


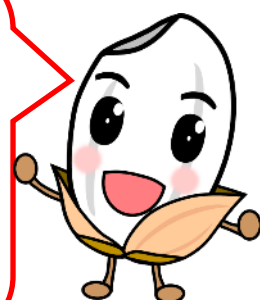
図2. 向こう 1 か月の気温経過の
各階級の確率 (%)

6 月 1 日から 8 月 31 日まで、**農薬危害防止運動実施中!**
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や
注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。

危害防止講習会のオンデマンド配信についてはこちら↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/1305610235740.html>

8 月 31 日まで視聴可能です。(申込締切: 8 月 25 日)





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

「多」	: 1番目（最多年）と同程度以上
「やや多」	: 2～3番目と同程度
「並」	: 4～7番目と同程度
「やや少」	: 8～9番目と同程度
「少」	: 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

二次元コードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662（直通）